

城陽市障がい者自立支援協議会

第7回 療育部会報告書

報告者 部会長 障害（児）者地域療育支援センターういる 松崎 菜緒

標記について下記のとおり報告します。

日 時	平成 25 年 5 月 24 日
場 所	城陽市福祉センター 3F 研修室
出席者	城陽市福祉課 相談支援事業所（障害（児）者地域療育支援センターういる） サービス提供事業所 （障害者支援施設あんびしゃ、きりん、汽車ぽっぽ、そらいろ、 城陽市社会福祉協議会訪問介護センター、指定居宅介護事業所チャレンジ、 ふたば園、ものづくりスペースみんななかま）
検討課題	○支援ファイルの利用法について、実物を用いて利用例・流れを検討 ○就学移行支援方法について

【議事録】

<p>1. 自己紹介</p> <p>2. 前年度より</p> <ul style="list-style-type: none">* 前年度より挙げられた課題の確認（意見交換）・ 支援ファイルの利用方法と就学移行支援について・ 支援ファイルとは、『支援方法を統一していくものではない』ことの確認 <p>3. 支援ファイルの利用について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 府の作成した支援ファイルにより、城陽市独自でモニターを実施。改良した支援ファイル（通称『支援ファイル アイリスノート』）を参加者で確認。・ 保護者の負担軽減 … 子供自身の状態や経過を、新しく関わる機関に対し、その都度各事業所に伝えていくことが負担になるため、支援ファイルを活用できれば軽減できる。 <ul style="list-style-type: none">* どの段階で配布していくか？・ 1 歳半検診時では受け入れられにくい、6 歳（就学時）までには必要になってくる。配布時期についてはそれぞれの保護者に沿った形で進めていく必要がある* 支援ファイルとサービス等利用計画について・ 支援ファイルは親が主体で作っていくもの ⇒ では、（支援ファイルで）何ができるか？… 今後整備が進められるサービス等利用計画への参考にしていく
--

4. 就学移行支援について

*連携について

- ・ふたば園を卒園した後の引き継ぎが学校とも行いにくい（独自で作成しているサポートブック・個別指導計画は卒園後に使われていない）。

日中一時などで預かっている事業所も、学校との連携が少なく様子がわかりづらい。

⇒ ふたば園より…独自で作成したサポートブック・個別指導計画の引き継ぎについて、保護者からのサポートブック提出に対する拒否はなく、反対に保護者からは、事業所から聞かれない場合、出しにくいといった声を聞く。事業所から声をかけてもらうことも有効ではないか？

- ・学校での様子・支援の方法も踏まえ、できれば足並みを揃えていきたい。

5. 部会の今後について

- ・支援ファイルを有効に活用していくために、未就学時～成人に至るまでの経過等を、事例を通して部会内で協議し、どの段階でどのような気づきや支援が必要だったか等検討する。